

LEON- TODO

N-ro 8



1953

DECEMBRO

ENHAVO

NI FUNEBRAS - Morto de s-ro Einar Adamson	2
Gratulon por Gaudziĝo de du junaj gesamideanoj	3
おもいで (3) 712.ヨシハル 4
Pri la pupeto nomata "Kokeŝi"	Noboru Hayakawa 9
アメリカ航海の日記から	高橋 運治 11
ある友人からの便り	中沢 天眼 17
モスクワの J.V. スターリンヌの公前状	朝比 眞界 訳 19
エスペラントと平和運動	ブルダ、ルドルフ (Ludolf) 22

Aldono Informo (reporto) de H.E.L.

p.2. 大分県から 送付

Ni Funebras

Lastatempo en " Heroldo de Esp. " oni anoncis pri la forpaso de s-ro Einar ADAMSON, Svedujo.

Li estis tre fervora 40-jara esperantisto kaj agadis por nia afero kiel komitatano kaj ĉef-delegito de UEA, sekretario de TEJA (Tutmonda Esp. Ĵurnalista Asocio) kaj aliaj. Precipe post la mondmilito li etendis sian manon por helpi nin, orientanojn, kiuj submetitaj pro la pasinta mizera milito. Multaj japanoj, inklusive niaj asocianoj en Otaru, ricevis de li tre valorajn varmajn esperantaĵojn, librojn, gazetojn aŭ aliajn diversaĵojn.

Ni aŭdis ke li suferas je kormalsano, tamen la sciigo de lia morto efektive atakis nin. Ni perdis en li ne nur nian gravan subtenanton sed neforgeseblan gvidanton. Nia sveda granda stelo falis ! Li naskiĝis la 14-an Majo 1894 kaj mortis la 11-an Junio 1953. 59-jaraĝa.

Ĉe la fino ni esprimas sinceran kondolencen al la lasita familio, s-ino Elma Adamson kaj f-ino Inga Mai Adamson.

Estro de Otaru Esperanto-Asocieto

D-ro Isamu Yamaga

I. Yamaga

Gratulon por Geedziĝo de s-ro H. KODAMA
kaj f-ino H. ISIZUKA

En la lasta novembro ni ricevis tre ŝojan
scigon ke s-ro H. Kodama en Sapporo edziĝis
kun f-ino H. Isizuka.

Kompreneble tio estas unu el la plej benataj
favoroj, kiun nia Dio de Amo ofte donas al
sinceraĵ geesperantistoj.

Estas sendube ke ili plie kunlaboros por nia
afero, ĉar ili estis unuigitaj per nia kara
lingvo.

Ni tutkore gratulas ilin kaj preĝas al Dio
ke Li gvidu tiun novan verdan hejmon.

Estu benata kaj prospera ilia amo !

Ilia nova adreso :

Kita 12-zyō Higasi 2-tym.

Nisimura-Humio kata

Sapporo-si

子井が好きだこと、ニッポン人は親切なことなど話してくれた。

昼食後 s-ro P. Pavlov はお茶にいろいろと話かけてきたが、殆んどしゃべれないわたしは、パヴロフさんの助け舟を何ぞうも何ぞうも繰り出してもらつて、よちよちと頼りないエスペラントで外人との初めての会話をやったのだつた。

パヴロフさんは立派な大きいサイン帳を用意しておられて、内外の有名な新聞 Samidearvoj の氏名や短い句が色々な形で沢山サインされてた。特に多いのはニッポンからシベリアを由ヨーロッパへ行く途中、ハルビンに立ち寄つて、パヴロフさんを訪ねた人々のものだつた。その日にわたしも何人かの筆蹟の中に、まづ筆蹟を背で残したのだつたが、いまは s-ro P. Pavlov も生死不明で、あのすばらしいサイン帳もどうなつたことやら……全く惜しいことだ。

2 度目に訪ねたときも s-ro Kio といつれだつたが、そのときも大変よろこんでくれて狭い食堂兼茶室で、ロシアのお菓子をつまみつまま紅茶のみながら、s-ro Kio と s-ro P. Pavlov のエカイそうな話を聞いていた。

この日のロシア人の紅茶の飲み方をおもしろいと思つたのは、ニッポン人なら紅茶に甘く sukero を入れてのみ、そのほかにまた甘いお菓子をたべるのだから、彼等は紅茶には sukero を入れずにお菓子の甘さで間に合せ、サトウ芋の紅茶をのむことだつた。

そのご3度目に訪問したときは2階の狭いベランダに、もしニッポン人なら洗濯機用の木ワケや石炭、マキなどの置場にしておるような狭いベランダにおさいテーブルやイスを携り出して、紅茶を入れてくれたことがあつたが、その時の紅茶の入れ方もおれわれニッポン人にはめずらしいものだつた。当日の密を交して5人のコップのうち自分の分にあつた濃い紅茶を入れて、それを5人分に均分して、サ湯を注ぎ足し、一杯にふやしてゆき、ジヤムやケーキで飲むことだつた。

なお、おれわれからみて意外な飲み方は彼等はいわゆる紅茶やワインを使わず、ビール、サイダーなどに使うガラスコップの大きいのに濃い紅茶を入れて飲むこと。熱いのを冷やすときはコップのせいのソーサーにうつけ入れて、さましてそのまゝ飲むことでどうもニッポン人からみると汚らしく感じることだつた。お茶したちもいまでは紅茶はコップで飲むようになってしまつた。

s-ro P. Pavlov は赤系ロシア人だということだつたが、共産主義は嫌つていた。Sovjeto 本国に強制移住させられて行つたが、すでに70近かつたから、もちろん生きてはおられないだろう。Esperanto にはとても熱心な青年のような気分を持つた人だつた。

8. 緑と赤

Revue Orienta 誌 11 月号の三宅安平さんの才40回日本エスペラント大食の印象記を読んで、「……中立主義のわたしにせよ、のちにはその中立のゆえに二、三事件以後、朝の日ごめに、ああ！きょうも無事であつた。と思つたことがいくたびあつたことだろう。現実、あの純粋の「学究」である川崎君さ文が、

教の月
月4日
たつて
ことを
間柄た
るうち
寒い
つた。
朝鮮人
め一眠
いよ
スバラ
まく探
ミも出
をふく
ツ。】と
着出来
の仲間
たされ
3-
つた。
矢じや
そのと
思ひし
たもの
当時
たこと
さてど
ちよ
ると話
の人た
わた
果あて
かまえ
スバラ
だろう。
巻きれ
名は7

数ヶ月をブタ箱にすごしている……」というところを眺みながら、昭和17年3月4日の夜、北満四平街市のある劇場で映画お尋ね佐助を見ながら長い死命にかたついていると、突然木戸まで無用で呼出されて、刑争に引立てられていったところのことを思い出した。留置場前の廊下に突立ったまゝ、理由のわからないまゝを数時間毎に連れてきた。この間にも巡査とエスペラントについて話したり、宣伝しているうちに夜が来てその夜は留置場に止められてしまった。

寒いハヤで、一晩中留置の理由を考えてみたが、わからないまゝ涙が明けてしまった。そして翌日もまた止められて、3日目に出されたが、そのとき同室していた朝鮮人から、あなたば刑争にいろいろとたてついたでしょう。だからこらしめのため一晩だけに入れられたのですヨ。巡査がそう云ってましたよ、話してくれた。

いよいよ出されるとき別室で一人の巡査から次のようにしかられた。「キミはエスペラントをやってる相だな」「ハイ！ もう10年近くやっています、仲々うまくなりません」「最近、奉天で満州エスペラント大会というのがあるそうだが、キミも出席するつもりかね？」「エー！ そりやあ、もちろんですヨ」とうれしさに胸をふくらませて答えた。とたん「ナニッ！ 何がもちろんだ。もちろんとは何だッ」とドエライケンまくでどなられてしまった。わたしは間近にせまった大会に出席出来る楽しさで答えたのだが、先方は赤の面倉に出ることを楽しみにしている赤の仲間の人と見たのだろう。おすエスペラントの本を全部持って来い、と言いつたされて家に帰えされた。

3〜4日後に本をもらいに行くと、持って来て置いたまゝの形で赤においてあった。わたしにとっては大切な本が土足に汚れた床に置きざりにしてあるので気が臭いやない、ぞり置いとけといわれて、それから又週間後に再びとりに行ってみた。そのときも初め届けばとまゝの案でほこりまぬれになって赤においてあった。臭いしなかつたのだ。彼等には何もならない物でもわたしには命から又番目に大切なもの、やっとなげされてゴミをはたいて大等に抱えて帰った。

当時の満州日日新聞に、「あまり皇室をほめるのと右翼だといわれるし、社会主義的なことをいうと左翼にとられる。だからだまっている自由主義者といわれる。さてどうしたらいいのか」と出ていたことがあった。

ちょうどいまごろ、世界の平和を唱え、エスペラント主義者は平和の希望者であると話したりするとおれは左翼がかつているといわれ、平和運動に協力しない赤の人たちからおいつば右翼だといわれるのと同じようなものだ。

わたしが留置場にほうり込まれたのは、二・二六事件後、大連警察から四平街警察まで、わたしを殺調べるようにと電報が入ったので重大犯人か赤とでも思いつつかまえたのらしかつた。大連では大連エス会の機関誌 AKACIO に「大連警察とエスペラント」という記事など書いて呼出されたりしので注意人物になつていたのであろう。取り調べのとき、機関誌の名の AKACIO (アカチーオ) は変更比よと注意された。AKACIO はアカシヤのことで赤には何にも関係ない名であること。呼名はアカチーオでも中味は縁のぞと説明したが、だめだ「アカチー」をやめて

「クローチオ」とし、毎号名前を変えたらどうかというので KUROCIO というエスペラントばないという、イヤ！アカチオでは困ると聞き入れてくれなかつた。その結果 LA UNVA, LA DUA, LA TRIA;---- と毎号名前を変えてやろうがこれなら発行号数もわかるしと考えたが、それつきり機関誌は出さなかつた。この大連警察でのおれやこれやが因で、大連警察がタイ木命令を出したのだらうと思つたが、大連警察に出向いて理由をたずねた結果は、わたしの親しい同志 S-ro Tan-Sa が赤だからというかどで緑のわたしがつかまつたというわけ。

そのご、S-ro Tan-Sa と新京であつたとさつかまつたことを話すと、それはご迷惑かけましたネ、わたし自身は何の取り調べもうけなかつたのにネと大變気の妻があつてしたが、S-ro Tan-Sa はいま Hiroshima でエスペラント普及、緑化の運動のため懸命に努力している人である。旅順工大生時代に赤の仕事を手伝つたかどで小一年、malliberejo の生活を送つたが、この malliberejo の中でエスペラントを學び、すっかり verdigi されていまでは完全な verdigi into である。

このように戦前、戦時中は Esperantisto は赤く見られていて集會などもうろさかつた。わたしの妹たちもその友から「あなたのお兄さんはエスペラントをやっているから赤でしよう」とよく云われたぞうだ。当時の世間は緑即赤とみていたのである。

北京のわたしの後輩の Sim-Ya 氏から「あなたは國際的なエスペラント普及に努力しているので、同じ國際的な共產主義の運動には理解してもらえんかと思つてから協力してほしい」との手紙をもらったが、その返事に「エスペラント普及も共產主義も國際的な運動であることに異議はないが、Esperanto はその標識が示すとおり緑の星でどこまでも平和を希望するのに対して、共產主義は赤の星でいつも闘争を希望しているので両者の主張がマル反対だからわたしとしてはサンセイ出来ないと書き送つたことがある。

われわれ Esperantisto はいつも國際中立で、世界平和、緑のなごやかな思想を広めることにのみ努力をしたいと切に希望するので決して一方的に片寄りたくはない。

國際性をもつ Esperanto だもの Esperantistoj の中に赤もおり黒もあつて何の不思議はないのに malnora samideano の中には未だににらまれることをおそれて會合などに出ようとしなない人もあるようだが、おそれては世界の Esperantigi、緑化はできない。

ただ、再び警察当局が緑即赤といった見方をするようなことがなければ良いかとそれをおそれる。また、そんな気持ちを相手にあてような言動があつてはならないと切に望むばかりである。



Antaŭ
japanan
dankon.
la antaŭ
ridetas.
ribi nen
ribas ion
Kiel no
kate aŭ
as certe
nur nain
La "Kok
ĝija" de
intermon
aŭ pleto.



Jafiro-Stil

Pri la pupeto nomata "Kokeŝi"



Noboru H² akawa

Antaŭ kelke da monatoj, mi donacis al franca samideano japanan pupeton nomatan "Kokeŝi"; kaj riceris de li grandan dankon. Laŭ lia raporteto, la pupeto estas starigita sur la antaŭbreto de lia libroŝranko ĉiutage. Pro tio mi ofte ridetas. Tamen mi nun bedaŭras, ke mi ankoraŭ ne povis skribi nenion al li por enharigi la etaĵon. Do, mi ĉi tie skribas ion pri ĝi.

Kiel nomata "Puplando"; jen estas multe da pupoj, delikate aŭ naive manuskriptitaj en Japanio. La "Kokeŝi" estas certe unu el la lastaj, sed nia intereso al ĝi estas ne nur naira sed simpla.

La "Kokeŝi" estas faritaj de la lignafistoj nomataj "Kikija" de antikva tempo. Ili estas tiuj, kiuj loĝis en la intermontaj vilaĝoj kaj fabrikis ujojn kiel ligna tavego aŭ pleto. Ili estas multe monitaj ŝ-ro Ogura (小林, 小倉) aŭ Satō (佐藤), kaj antaŭe ili ne volis edziĝi aŭ amikiĝi kun najbaraj vilaĝanoj kiuj havis aliajn profesiojn.

Laŭ la skribaĵo pri ilia familia deveno de nun mi skribas legendon pri fondo de japanaj lignafistoj. Antaŭ mil kaj pli jaroj, Princo KORETAKA (惟鳥親王) de la 55a Imperiestro Montoku ekretirigis entiu ĉi vilaĝo kun siaj vasalaroj en intermonta Vilaĝo Ogura (小林郷). Ŝiĝa Prefektejo pro la surtroniĝo de sia plujuna frato. Iun tagon, ekspensante de glano kaj ĝia kaliko,



Jajirō-stilo



Tōkatta-stilo

Ambaŭ
kolorigitaj

li inventis la tornilon, kaj ordonis du arbohakistojn fari lignajn pletojn. Kiam tiuj estis bone faritaj, la princo tre ĝojis eldirante, ke "tio estas japana trezoro sendube, ĉar tio fariĝos anstataŭe por neglazurita argilaĵo kiel mangilaro." Kaj, li certigis ilin por la fondintoj de la japanaj lignafistoj, kaj nomigis la unuan "Micujoŝi Ogura" (小森光吉), kaj alian "Hisajoŝi Hufiŭara" (藤原久良). Antaŭ ĉ. 1360 kaj pli jaroj la idoj de M. Ogura komence transloĝiĝis al la suda parto de la nordorienta regiono de japana ĉefinsulo, kaj poste ili pli kaj pli disvastiĝis en tiu ĉi regiono, kie nun la kokeŝi estas plej multe faritaj.

La signifo de la vorto "kokeŝi" estas por mi malfacile komprenebla. S-ro Rjōkiĉi Mihara iam klarigis, ke "ko" en "kokeŝi" signifas "lignon", kaj "keŝi" signifas "deskrapita". Tamen, ĝi estas iom racia, bedaŭrinde. Mi ankaŭ konsideris pri tio, ke la vorto povus deveni de "ĝokiso" (御器所), t. e. fabrikejo por Diaj ujoj. Tamen, ankoraŭ nen mi ne poras aserti.

Laŭ S-ro R. Mihara, en dialekto de "kokeŝi" troviĝas tri sistemoj. La unua estas "kokeŝi-systemo", la dua estas "Hōko-systemo", kaj la lasta estas "deko-systemo". Pri tiuj krom la unua, mi ne povis altuŝi promia okupiteco. Mi nur skribas, ke la vorto "kokeŝi" estas plej vaste komprenebla por ĉiuj japanoj.

Iam S-ro Tarō Nakamura skribis, ke la "kokeŝi" antaŭe povus esti la kredobjekto por la lignafistoj. Mi ankaŭ interesus en ĉi tiu vidpunkto, tamen mi ankoraŭ ne havas materialojn por tio.

Pri la stiloj de la "kokeŝi", la sama folkloristo konigis min du. La unua estis nomata la "Tōkotta-stilo" (遠川田派), kaj la alia estis nomata la "Jaŝirō-stilo" (彌次郎派).

Bonvole vidu la stilojn antaŭparte.

—Fino—



二二一

1日前の夕
 辺り、海の前
 とを思い、や
 をもあげると
 遠くのように
 が見えすよ」
 驚き、「ほら、
 ていたのだか
 の様々な表情
 めているもの
 水姿を来した。
 半堂が一杯で
 船会社の乗組
 るのも大都会
 の投擲位置が
 されぬ像を見
 せた。

それから G
 入るあたり、
 きり浮んで来
 てここで s
 いなかつた。
 間にアメリカ
 の主義者がい
 るまで出来な
 狂瀧時期が少
 い。移民者の
 傾向は、共産
 りするるので
 しても、こゝ
 に死して Yes

アメリカ航海の日記から



高橋 運 治

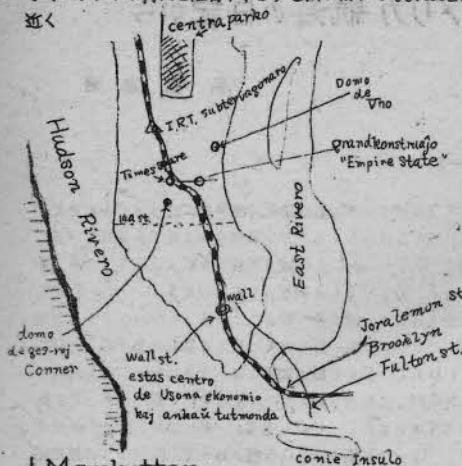
ニューヨーク (その一)

1日前の今頃は、コニー島附近の大きな油タンクの影が灰色の水平線にばんやりと見える
辺り、海の流れと、ぼつぼつあらわれてくる灯火に、ハドソン河は今私の足下を流れているこ
とを思い、やがて、*Granda Urbego, Novjorko* の偉観が眼前に表れようとするのを、足
をもあげる心持で期待していた。そうして、めまぐるしい河岸のネオンの光を、一つ一つ文字を
通うようにみつめてみたり、岩壁掘削作業を私と一緒に待つ船員に、「ほら、マンハッタン
の建物が見えますよ」と指さされ、突然睡眼にそそり立つ黒い影と中天に見える星ならぬ千億の灯影に
驚き、「ほら、自由の女神ですよ」といわれて、船首左舷の眩暈に浮かび出された女神像を凝視し
ていたのだが一夜の幕が解け放たれた早朝、其等の *imaĝo* の実体を見、眠れなかった一夜
の様々な空想を現実に掲げしめようと上甲板に出た。しかし濃霧が一杯に立ちこめて、私の求
めているものは未だ影として見えぬ。「ぼー」と霧の中から音響があつて、ハドソンの連絡船
が姿を求した。二階建て、上が船客室、下が乗用車室である。上がガランとしていて、下の乗用
車室が一杯である事が *niĉa* なこの市民の生活の一端を示していた。やがて *Morax* 支
船会社の貨船があらわれた。二種色の船体色が西部のそれらに比して濃厚な濃い色で配されてい
るのも大都市の活感を示すものであろうか。帆柱がはじまると、私はすぐ船橋に上つた。昨夜
の投錨位置が *Bedloes* 島のすぐ傍であつたので、この時やうやう「自由の女神」の微いかく
されぬ像を見た。徐行する左舷に女神のかかえもつ自由憲法の大冊が数人の厂家的事件を想像さ
せた。

それから *Governer's* 島 (監獄があるので有名) を右舷にし、*East River* (東河) に
入るあたり、霧も全くはれてマンハッタンの *grandaj kaj altaj konstruaĵo* がく
まきり浮んで来て、私の視界を中空まで抑えていた。午前9時ブルックリンの埠頭につく。

そこで *s-ino Corner* からの *respondo* を期待したのだが、どうしたものか刺さって
いなかった。一刻も早く、この大都市の土をふんでみたかったのだが、私の船が両走っている
間にアメリカの対外国船員態勢が変つて来たのでそれか出来なかつた。要するに船員の中に共産
主義者がいることを警戒しはじめたので移民官の検査が厳重になり、私達の工率はその検査が済
むまで出来ないことになつたのである。焦々しなからどうにもならず大切な時間の浪費をした。
在港時間が少いのに出来れば今日も一度 *samideano* の誰かに会いたいと思つていたので
が、移民官の検査というのは船のサロンで船長から船員のほしくれまで一人づつ、身元について
質問し、共産主義団体に加つたことがあるかと聞いたり、アメリカ国法に従うことを宣誓させら
りするのである。彼のしゃべる英語を本当に理解するものもないのだし、又共産主義者であつたと
しても、こんなときには私は共産主義者で上陸せぬでもよいなどというものも居らず機械的に順序
に応じて *Yes*、といつたり *No*、といつたりするのだから全然屈辱味である。全乗員検査終了した

のハドソンの三時で、川岸と暗黒横長のこの街では早くも夕陽が傾いていたが例によって船員の仕度（日本からの荷物を陸揚げする）を出し抜いて Joralemou 街に躍り出た。この運りに間近く



Manhattan

の人間達だ。私はそれでも人混みを求め、軽い大地の反響を足下に感じながら元の街へ歩いていった。

“何処の港々？”と変船の水夫が尋ねた。“Baltimore だ。”私の答はうつろだったかも知れない。又頭の上をその数十階のビルの灯火がちらついてそして今度は前と反対の方向に流れた。24時間前にここに入港し、たつた三時間の工段でもうこの港を去ってゆく暇はならない。すべての灯火が昏黄な後光と流孔達のく。暗い、寒いハドソンの河口をもう通り抜けた頃であろうか、機内はもう全速力、そうして船は私の満たされぬ思いをのせたまう一途に南へと走っているのだ。

ニユーヨーク

1953. 1. 5.

“再びニユーヨークに向う。”——海の暗さと、海の冷たさにすっかりつまらなくなっている心には、それが、再び自身を支える希望になっていた。

5日午後5時半、ハドソン河口水先船碇泊地に着く。夕闇が仄かに迫り、行進つた2万5千トンのアメリカ製の灯火が、もはや明瞭である。

やがてブルックリン病院の灯がけんらんと味びて来た。船橋に上つて二等航海士さんと“又ニユーヨークですぞ……”などと話していたら、船長が、高橋君、今度はゆっくりできるねと声をかけてくれる。——本当に3日間ゆっくりできるのだ——船長が斯う云ってくれる以上、在港3日はもう確実——。そう、自分にいい聞かせると、再び現れて来た自由の女神や

高いマンハッタンの
その脚裏用をはじめる！——
夕時、前と同じ
に机の上のついで

親愛なる高橋
私達はあ
座ります。
事務所に解
ここは北
のです。
心からの

12月30日附
だ思いである。そ
ることも明確に
八時頃再びフ
のような言葉の
とにやく日暮も

Ges-roj

地図はもう、
かまけるだろう
でもあり、案外
Jeralemon
食糧なものまで
に入りこむので
ない、美しい通
ない。私はまご
ことにした。ま
人がその前に行
10セント2枚を
nej と書いて
立っていない。
の方に手を少し

高いマンハッタンの *konstruaja* をふり仰ぎながら、忽ち、3日間の行動予定についてそろそろ胸算用をはじめた—— 今度こそ、あのせらめく灯の中でのんびり朝を抜けることができる！——

7時、前と同じ17号線に着く。すると、今度は S-ino Conner からの手紙が入待ち機に机の上ののっていた。

12月30日

G. アラン・コーナー
D. タパン・コーナー

親愛なる高橋君。

私達はあなたの手紙を受取り、あなたが米国に無事到着されたことを知って喜んで居ります。もし、ニューヨークに数日も居ることができれば、どうぞ私達の事務所に出して下さい。又、電話番号 CH 2-2315 で電話することもできます。

ここは北アメリカエスプラント会社の事務所であり、且つ又、私達の家庭でもあるのです。

心からの挨拶と期待とを以つて。

12月30日附だから、きつとパナマからの手紙を受取られたのであろう。とにかくほつとほつと嬉しいである。それに今朝通り S-ino T. Conner が S-ro D. A. Conner の夫人であることも明確になったので嬉しかった。

八時頃再びフルトン街からジェラルドソン街を歩き、途次夫人に電話した。F-ino H. Wolf のような茶の癖はないが、早口で、ききとれない所があった。

とにかく日数も三日あることであるし、と、明日を期待して早寝につく。

Ges-roj Conner

1953. 1. 6.

地図はもう、大略理解できた。地下鉄の動きも察しがつく。—— ニューヨークの街を何と何か歩けるだろうという自信があった。しかしこの自信(臆懼?)は意外に簡単に逃げられたようでもあり、案外そうではなかったときもある。

Jeralemon 街の片隅にある subway (地下鉄)の入口は街の華大さに比べると余りにも貧弱なもので公衆便所か何かと間違えそうであった。それでも朝の九時、人々がぞろぞろとそこに入りこむのでそれに間違いないことをやと認めた。釣堀(?)たる日本の東京は三越地蔵みたいな、美しい通路はない。装飾はそこに入ってゆく人々の衣裳だけだった。おまけに切符売場がない。私はまごついた。しかし突唯の場合後からの老婦人のレリについて、その人のまねをすることにした。まぎらうすぎたない村底小さな *ejó* があり、一人の男が坐っている。つかつかと婦人がその前に行つて、たしかに50セント出した！ すると男が25セント一枚5セント一枚10セント2枚を婦人にやった。〈なるほど！〉私がその *ejó* の上をみたら *Change Money* と書いてある！ すぐ私も金を交えた。右へ出ると入り口があり、誰も(切符切り)が立っていない。ところがその婦人が通るとき、ガラリとその十字形の扉が開いた。もういよいよ右の方に手を少しやつたようである。それで私もとつかつかとそこをいつてみたら、金を入れる

細長いバスが走っている。電話箱と同じだと思つて、すぐ金を入れた。バス賃はどこでも10セント位だった。10セントの形は一番小さいので10セント入れた。ガタリとその額が90度廻って私の尻がしたなれたか、私の体は一歩前進した。尻は高かつたけれど此で成功！——といふ集合である。To Manhattan と To Down Town に構内が分れている。勿論矢印にそつており、構内はゆるく、やはり Norjonko にもラッシュアワーというものはある。相当の混みようであった。その ragono の約半数の乗客が立っている。しかし東京のような柄の悪そつな雑措容姿をする者は居らず、例文は大方の s-roj が帽子(ヘルメット)と手袋をつけている。Wall 街停車場で大半が降車するが、ges-roj Conner の oficejo は十六番街から14番街停車場まで乗つた。

十四番街の停車場は又くて(勿論また地下)売物やアメリカ式の restracio があつた。然し West 116 番地を歩むには北上した電車の進行方向に対してそのままにゆけばよいであらう。十四番街はずつと商店が並んでいる。ふと四つ辻にかりつた番地名からやがて West 116 に近づくことを知つた。まもなく West 116 と書かれた戸口の前に立つた。ところがそこが洋服屋であつたので私はいささか驚いた。ges-roj は此處に住つてゐるのかしら？ 或はこの二階かも知れない。とにかく入りこんで四十から五の店主にここが北アメリカレストランの店かと思つた。するとこのおやぢさんはかなり流暢な Esperanto をかきける。E. S. peranto? Conner? すると、そばにいた若い女客が横巻を入れた "Are you a Spanish? " かなり自信のついた客の私の英語はスペイン人のしゃべる言葉に似ていたらしい。"Esperanto is the international language and I ask you where is the North America Esperanto-Association?" と私は倉の爲に Jarlibro の adreson をあつて示した。すると女がいつた "This is 14th Street, and the association is in the 16th!!" "Oh!!" 私は悪は和声あげた。西にだけ歩いて北に二通り上ることを忘れていたのだから。

5分後私はその大きな apartamento の前に立つた。門の石柱に、幾つかのベルがついていて、その一つに "Esperanto Conner" と書かれてあつた。ベルをおす。すると反対に玄関のベルがなつた。勝手に入れという信号だつたのだらう。しかし私はわからず、もう一度おした。すると若い s-ro が二階から下りて来た。"Bonan tagon" とその人が挨拶される。"Cu vi estas s-ro Takahashi?" 導かれて二階に上る。階段もみな鏡、手摺も壁も模様でせかされ天井は高い。壁の入口の戸も立派なもので s-ino Wolff の家とは大分違つている。"Bonan Tagon, s-ro Takahashi." 外姿もとらないのに、s-ino Conner が私を愛想よく迎えてくれた。s-ro Conner も出て来られる。挨拶をして握手したとき、突然 s-ino Conner が余りにも美しいのでいささか度離を感かされた。此人は幸を申上げるのは失礼かも知れないが、私は赤た尻の人より美しい人にあつた事幸ない。本当に美人型の美人で、その手を premi したとき Saluto の挨拶以外に私の好女性観がぐらついたので、たしかに感じた。s-ro が大きな装束椅子を指さして sidiĝu といはれる。s-ro Conner の家はきつと室が三つなのであらう。Pordo のそばに料理室など、それに今私の坐つてゐる手摺室、それから私の私室。手摺室は意外に小さい。机が四つあり、s-ino と若い s-ro それに御座るの s-aninoj が手低つて仕舞して居られる。s-ro は早速私の narvojaĝo について尋ねられる。航海がきつめて agrabila だつた事、シゴキやロスで ges-anoj から出語になつたことなど話した。それからこの市でのエス運動状況を尋ねた。明瞭なエスランチスト数はわか

らなしかつてに盛りに出され、この s-ro ni mem preseritely に印刷されてい、まは出来ません。を見た。"日本人が彼の Malasulo" 夫人が横巻 ano は幾分承い、日にここで Kunno と口をきられ、そのは各別別に甲斐の仲間するのに大乗、といふところできつたことわがらう、つたいわれ、一つのぼん型-事務用、masino には遊 jaĝo などがあつ、旗連にできてゐる姿、難をいふも心配みせられた。この organo ができあがるわけであるの本はどこにあるの中にあつたので

S-ino Conner もう午後一時にも地団を前にして朝のボーキまで送るなことは他人に言までも執情で愛をかき求めてその三日間の s-ro restracio 売店、監獄食室な stomako 歩いてゆこう。街から40番街街はアメリカの

らないか、彼等に盛になりつゝあると察せられた。"American Esperanto Magazine"を出され、この雑誌は編者兼編集私達が印刷するのです"といわれた。"Ĉu vere vi mem presas?" すぐ私は問い返した。その雑誌は *mempreso* としては普通の程きついに印刷されているのだから。"日本でも各地区運動で *mempreso* をしますがこんなにくましくは出来ません" "そつでせう" S-ro はつと立ち上つて隣の机の上にあつた "Samideano" を見せた。"日本から来た雑誌です、S-ro Nakagaki を知っていますか" "会つていませんが彼の Matsato en Riĉa Rikolto 等を知っています" "あの本すら私もよく読みました" 夫人が横からいわれた。"しかしねえ、私はこの雑誌は余り好きませんよ、Samideano は幾分赤いからだ。それについて S-ro はエスペラントの中立論をのべられる。" 今月10日にここで *Kunveno* をやるのですが——あなたも残念ながら10日には居られないのでね——と口をきられ、その *Kunveno* で *samideanoj* がとてもよくしゃべつて、しかも彼等は否別別に申請て取るのでとてもうるさくて、——(S-ro は腰を押え輪をしかめる) それを仲断するのに大変だといわれる。(ここら辺り S-ro の言葉は熱をこめてと早くになり、Sed、ということどころで言われるだけ私を安心させる) 先程の雑誌がここで *mempresi* されるといふことがうなづけないのでそのことをたづねる。Vi povas ridi la maŝinon koro かいわれ、一つの ilo の方言私を諷刺された。机の上に *skribmaŝino* が三つあつた。一つは小型一事務用、一つは中型一事務用、そして最後の一つは此と大分構造が違つていた。Skribmaŝino には違ひないが、原紙をうつたはずべて *elektro* でなされ、しかも *fotografajo* などが *ŝtupo* でできるような装置と、打つた文字の石版が左右端とも上下にそろつような構造にできている。"2000ドルにするのですよ" と S-ro がいわれた。"蓋面が小柄ですから装飾をいつも心懸するのです" S-ro が笑はれる。差し S-ro がスイッチを入れて作動してみせられた。この "skribmaŝino" で書かれた原字を輪転式の印刷機にかつるとあの美しい *organo* ができるのである。Kliso 用 印刷機他に頼む他一切の小さな *oficejo* でできあがるわけであるから羨ましいかぞいだ。S-ro が *libro-listo* を一部下さつたのでそれらの本はどこにあるのかとたづねたら、私の後の戸棚を開けられた。成程、きちんと蓋のある戸棚の中にあつたので私はこれが書棚であることがわからなかつたのだ。

S-ro Conner、自身の "Conner Course" が一番たくさんあつた。時刻が過ぎた、もう午後一時にもなろうか、お仕事も忙しそうだったので、市役の見物に値するような場所へ、地図を指にして教えて預いてからおいとました。S-ro がわざわざ寝のあるその *apartment* のボートまで送つてくれて、さほどの中立論で幾分他の人を攻撃されたときもあつたが、こんなことは他人に決していつてくれるほど 念をおされた。やつぱりエスペラントをやる人はどこまでも純情で愛想がよい。快よく時局を過ごしたことを感謝し、説明された 42番街附近の賑やかさを求めてそのまゝお別れした。

三日間のこの町の見学のためにはいささか金不足のむきもあつて、この街での食事は *Lukoa* の *restoracio* で無駄使いしないようにと決め、とある *drug-store* (藥、小売物、日用品売店、簡易食堂もついている) に入つて *keuko* と *kafo* を求めたが、20セント分て私の小さな *stomako* にはそれで充分足りた。Stomako が充ちると私の *piezo* はこのまゝ北に歩いてゆこう。名も知らぬこの街の片隅を買ながらゆこうといひだした。Wall 街の高いビル、街から 40番街まで だつて大きな *konstruaĵo* はないが、それでも大抵十階近く。この街はアメリカの他の街とも全く異つた特徴を示している。とにかく立体的であるということだ。

他の街ならばそこに住宅街があり、かしこに商店街あり、又他の場所に事務所街があるというように全く平面的な観感をするのがふつだ。しかしこの街の場合、地下に *trinkejo* や *teatro* があり、地階に商店あり、二階に住宅あり、三階に事務所あり、102階にテレビジョン発信局ありと思つていればよいであろう。日本の東京のように *moderna konstruaĵo* と *dometo-aĉoj* が共存しているようなハマな手ぬかりは決してない。

エムパイエステーツの *granda konstruaĵo* の頂さが近寄りすぎて更難くなる頃には私の周囲はさすがに賑やかに「世界の大都」の中心であることと認めさせずにはいなかった。Los Angeles のようなけばけばしい配色はみられず数十階の重みをぐんと抑えている地階の商店街が私のすぐ横にあった。人々の服装もウィンドの裝飾もこの重厚感をそこおはしなかった。

名所めぐりは明日の予定に残して、ニューヨーク最大といわれる劇場 *Radio City Music Hall* に入った。ここは東京でいえば日劇などに相当する所であつて、スラリとした美しい踊り子の織りなす歌の調べやわけのわからぬ男の歌もさることながら、休憩時間に休憩室に下りたとき、そこがあまりにもよく *klasiko* な裝飾に包まれ、私の足下の絨織があまりにも厚いもので座の上を歩いているような感じをうけたとき驚異を感じた。

Times Square の目のとめるような *lumo* の中をさまよつてみたりして、歩きすぎて疲れ、降り電車の中で眠りこけ、終点で掌撃に起された失敗もあつたが怪我もなく9時帰船。めまぐるしく一日の様々な印象が私の胸中を駆けめぐつてやはり今定も眠れない。

(後記。8日午後 *Norjanko* を乗れた。しかしその日午前再び *ges-roj* をめねて *elkon-danko* ものべたが、その際、16a H.E.L. Kongreso の写真をもつてゆき、*Hokkaido* のエス運動も少しお話しした。S-ro Aizawa の名を S-ino Conner は確知であつた。尚、S-ro Conner は二回日本に来られたことがある由。S-ino も日本に是非ゆきたいといつて種られた。御出でになつたら何とか歓迎したい。文中「若い S-ro」及び近所の「*mal-juna samideano*」のお名前を忘れて大変失礼に思ひます。神戸の喜本新造氏がよく御存知なので次回に再び記すことにしませう。)



彼は身体をいになる。

ゴオホはオランのゴオホは奥物である。その人のも多すぎる位だったオランダはレン

バシタ。彼はレン。現地の前には見るの裏だけはレン彼にレンオラン

若い時の黒い。美等は愛しないわ。素描も無頼では素でないといは風流とは言えない

てゆくが、しかし。突発はむしろ当本物を見ることか氏に書いています。

Paul Cézanne 満にたとえらるる。「アルルの城」や「肖像」や「馬蹄海」が送つてくれた

オ1冊に載つてい(は英文で VINC. Kröllen - in England

二十八日はやがたちの診察の結果「きつと助かる」とテオはいつた。

Malfacila Prononco

三石氏と一緒に十一月の二セコ山頂に上つた。歩きながら英語を出来るだけエスペラントをやつた。八合目あたり、突如西の方から一陣の寒風が吹いて来たので「O'malvarmega!」と叫ぶ管だったのだが「ma-va-mga」としか発音できなかった。ほつべたが風のためにしやちほこばつたのである。その時ふと考えた。エスペラントはやはり限から割り出した言葉である。「ものい文は風寒し秋の風」を身に沁みる程味はつている東北人は「おおさぶ」(oo, sabu) という自然語をもっている。「oo samui」のような美

しさはないが、寒風がこもつて、しかも発音が容易である。「O malvarmega」と二セコの冬の山頂ではっきりいえる人があつたらうれしいものだ。こんな単語など、もう少し Esperanto Akademio が考えてくれてよさそうな事ぢやないかしらんと思つたわけである。(高橋達治)



ある友人からの 便り

中沢天眼

僕は身体をいため、狂人じみてくれればくほど、ますます藝術家に——創造的な藝術家になる。 — Vincent —

ゴッホはオランダで油画だけで百三四十、デッサンを二百以上見た。アムステルダムの美術館のゴッホは真物である。又個人ですばらしいゴッホを油絵百以上、素描二百以上もつてゐる人がある。その人のものはアメリカに貸してあるので、全部見られなかったが、見られたものだけで多すぎる位だった。アムステルダムには九十の油画と、二百を越すと思はれる素描や水彩が、オランダはレンブラントとゴッホを持つことをほこりとしてゐる。ゴッホにも自分達は全く感心した。彼はレンブラントと比較出来る藝術家であるかどうか知らない。しかし、その強烈な表現の真には見るものは圧倒される。その真剣さには感心し、涙ぐむ。彼も孤独な男だった。その真だけはレンブラントに似てゐる。深い處で共通があるやうに思はれる。

彼はレンブラントの大きさを求めることは出来ないが、しかし端側に、実に強いものがある。若い時の黒い、美しいとは言へない画でも、その強さと真剣さなどに、ぶつかつてゆく圧力で、我等は愛せないわけにはゆかない。

素描も亦無類である。淋しさが全体にしみこんでゐる。其處で人々は俯いてゐる。生きることは楽でないとい彼は言つてゐる。もつと生きることは鏡にとつて裏面図な務のやうに思へた。暗。風流とは言へない淋しみに耐入ることを強ひられてゐる。彼の色は段々明るくなり、美しくなつてゆくが、しかし強り切つた力は、ますます強まつていつても、ゆるくはならなかつた。

発狂はむしろ当然の結果だった。それ等のことは日本に居た時、知つてゐたことだ。だが火山本物を見ることが出来た時、我等はそれをかく時の生きた彼の姿を見る。——と武者小路実篤氏は書いてゐる。

Paul Cézanne を評深淵にたとへるならば、Vincent Van Gogh は急流奔流にたとへるべきであらう。友は複製でお馴染の「自画像」や「耳を切つた男」や「家書」や「アデルの娘」や「郵便夫夫 Rubin」や「Dr. Gachet の肖像」や「Pere Tanguy の肖像」や「馬鈴薯を食う人々」や「ヌエボンの小道」「ピエタ」などの傑作を見たことだろう。友が送つてくれた「ある真物」は、最近出版された式場隆三郎氏のゴッホ画集(3冊)のオ1冊に載つてゐる。明るい感じの素晴らしい。いかにもゴッホらしい真物画だ。彼はかきには英文で VINCENT VAN GOGH (1853 — 1890) STILL LIFE ONIONS (Kröller — Müller Museum, Otterlo, Holland) とあり、Printed in England と印刷されてあつた。

二十八日はやがて暮れて行つた。フィンセントは少しも苦痛を感じないやうだった。ただ医者たちの診察の結果を知りたかつた。

「きつと助かるよ。」

とテオはいつた。フィンセントは強く首を振つて、「いや! 助かるまい。悲しみは生きてゐ

「返りのついでだ！」

と返しに答えた。

夜二時だった。フィンセントはだんだん意識を失っていった。そして彼の最後の言葉は、オランダ語で「私の旅は終わった」。

「Ik wilde dat ik zóó heen kon gaan'. (私はほら死にたいと希ふ)
かくて二十九日の午前一時30分、フィンセントは息をひきとじた。テオは煙籠の傍に泣き崩れて、いつまでも起きなかつた。

朝のウチガッシエは、死の床に今は永遠に眠るこの哀れな友の死面を描いた。

かくてフィンセントの働き多し三十七年の生涯は終りを告げた。しかも死後まなほ、ごたごたか坂の冷い道端の上にふりかかるのだった。

まさかかた葬式の準備にかかつてゐるとき、面倒が起きた。オーヴェルの僧侶のティシエが自殺者だといふ理由で棺車を貸さぬといひ出したのである。しかし牧場にたの人でやつと貸して貰へた。

フィンセントは七月二十日に埋葬された。墓地はオーヴェル (Auvers) の教会に近い共同墓地であつた。教人の友が淋しい葬列に加はつた。その中にはエミール・ベルナルやヴェル・モンギイもゐた。ドクトル・ガッシエは感涙にみちた舌根をのべた。それに対してティオは僅かに二言三言述べたのみで葬列してしまつた。

フィンセントの墓には、ガッシエによつて彼が生前愛した何日袋が手向けられた。(式場第三頁「ジャン・ゴッホの生涯」から)

私の友人が Nederlando で Vincent van Gogh の傑作を見に行つたのは7月7日頃であるから、ちやうど Vincent の死んだ月にあたるのも偶然ながら不思議な因縁である。

私は来年度の一月か二月に、この友人から親しい Vincent van Gogh の傑作の印象を聞くのだから待ち遠しく楽しみである。

* エミール・ベルナル (Emile Bernard (1868—1941), フランスの画家。Vincent の親しい友で、死後め飛らぬ友情で Vincent の最初の複製を催し、伝記を書き、その手紙を *Mercure de France* (1893) に発表し、画集と書翰集を兼ねた *Lettres de Vincent van Gogh à Emile Bernard* (1911) を刊行し、Vincent が世に認められるに大きな貢献をした。

友は Amsterdamo でいかなる音楽を聴いたかは、この *bidkarto* を書いた日までにかれはかれ自身の時間をもたなかつたので、書かれていない。

世界的に有名な Concertgebouw - Orkest の演奏を聴いたら良かったらうと思う。ただ Concertgebouw の正指揮者として 40年ちかく活躍した名指揮者 Willem Mengelberg が一昨年若齢七十歳で逝去したため、その名演奏を聴けないのは反のために痛恨事である。たしか反の *diskal bum* の中に Mengelberg の名盤が 2,3枚あつた筈だから、……

器 器 器 器 器

わたくしはここでとり上げた問題は、*lingvostudo* とばかりの *kulturoj* との肉連性 (*ri lato*) についてである。わたくしのこの友人は専門の語学方面のことに詳しいばかりで無く、文学、美術、音楽や演劇の方面にも相当の教養をもっているから、ヨーロッパに往つても



またか
UEA と
1952年5月
ない。これに
加えておられ
るため、今後
試文を掲げるこ
尚 スターリン
ス、「辯証法的

1950年半年
つきの手紙によ
1950年ク
沢の歌に述べて
(引用文) オ
スターリンの
全世界規模にお
おせず、採取者
互の不信は諸
開化の政策は清
能性をもつてあ
ることあり文
光し能が斗いの
らの死産諸から
つと聖にされた
なるのである。
語のすぐれた
我にはあつた
における社会主
義の形式といつ
たが首語問題に
於けるエスペラ



モスクワの J.V.スターリン文の公開状

朝比賀昇 訳

まえがき

UEA と SAT が共同で出した「モスクワの J.V. スターリン文の公開状」は既に 1952 年 5 月のことではあるが、スターリンも今は亡く、もはや古典的な文獻の一つかもしれない。これについては大島義夫先生が *Samideano* 誌 No. 19 (Jan. 1953) で批判を加えておられるが、原文を読み得る機会に恵まれない方も多い。UEA や SAT の考え方を知らぬため、今後の私道の方針を決めるためにも無意義ではないと思うのでおくれはせられて試文を掲げることとした。これを一つの契機として、活発な討論が起ることを希望したい。

尚 スターリン論文(言語学に関する)をお読みになりたい方は 1. 「作家への手紙」(白書局) 2. 「辯証法的唯物論と史的唯物論」(大月書店) に試文がある。

Aug. '53 訳者

1950 年半年、あなたは *Pravda* に載せられ、後に *Bol'sevik* に転載された論文と幾つかの手紙によって、言語学に関する討論に加わりました。

1950 年 7 月 28 日附手紙の終りをあなたは国際語の問題に捧げています。そこであなたは次の様に述べている。

(引用文) オ 16 回党大会の演説中、諸言語の共通言語への融合に関する部分からとられたスターリンのいま一つの公式について云えば、ここで考慮におかれているのは別の時期、つまり全世界規模における社会主義の勝利ののちの時期である。この時期には世界帝国主義はもはや存在せず、搾取者階級は覆滅され、民族的及び種族的の圧迫は除かれ、諸民族の民族的独立性と相互の不偏は諸民族の相互の協調と接近によって代られ、民族的同権が実現され、言語の抑圧と同化の政策は清算され、民族の協調が確立され、民族語は故力の形で自由に相互に豊にしよう可能な性質をもつであろう。これらの諸条件のもとではある言語が抑圧され敗れ、他の言語が勝利することがありえないことは理解し易いことである。ここでわれわれの問題となるのは、一つが敗れし者が対いの勝利者となるような二つの言語ではなくて幾多もの民族語であるであろう。それらの民族語から諸民族の長いあひだの経済的、政治的および文化的故力の結果、はじめにまずもって豊にされた単一な地域の言語が出来、その後で地域の言語が融合して一つの共通な国際語となるのである。これはもちろんドイツ語でもロシア語でも英語でもなく、民族語および地域の言語のすぐれた要素をとり入れた新しい言語であるであろう。(「辯証法的唯物論と史的唯物論」, p. 601-602)

我々はあなたが云われる政治的見解に就て我々の意見を申そうとは思わず、殊に「世界的規模における社会主義の勝利」とか「社会主義」の内容そのもの、現在の二つの世界に於ける国際関係の形式といったものに就て述べようとは思いません。あなたが論文や手紙の中で解れている色々な言語問題に就てあなたの見解も我々にとって関係がありません。しかし乍ら幾つかの国に於ける 에스ペラントの発展に対するあなたの手紙によるマイナスの効果を、我々は最近確認する

に到ったので尚更、我々は国際語に用するあなたの見地に就て適當な簡明な回答をあなたに送る義務があると考へます。

1.) 7月28日のあなたの手紙から、あなたは国際語の存在を否定するのみならず、現在に於ける国際語の存在可能性をさえも否定している。とゆうことが明に引き出されます。

この考えを全くあなたの言葉は現実と反するものです。なぜなら国際語エスペラント——過去数十年それを用いて現在用いている数千人の学生、洋山の翻訳や原作の文献、雑誌、ラヂオ放送大会、会議、若い文通等々と共に——は存在し、ロシアのツァー政府やドイツのヒトラーがエスペラントを禁止し、独裁的、世界主義的政府がエスペラントを差げたり蔑んだりしている等のことがあつたにも拘らず、既に65年を實際的に活動して来た。

2.) あなたは理論的に国際語の形式と出現を経済的、社会的、政治的、法律的制度（「社会主義の勝利の後」に……）即ち、あなたの云う「土色」や「上部構造」と結びつけている。このことは1950年6月20日の論文に云われたあなたの見解と自家矛盾に陥つている。その中であなたは言語は社会的現象であることを数回強調した。

「言語は一定の社会の中で、あるいくつかの土台によって、古いか或は新しい土台によって生みだされたのではなく、いく世紀におたる社会の歴史および幾つもの土台の歴史の全過程によって生みだされたのである」（p. 567 2.13）そしてあなたはイェ・クラシエニンニコヴァエの手紙の中でそれを精密に述べている。

「かんたんに云えば、言語は土台の部類にも、上部構造の部類にも入れることは出来ない」（p. 593 2.8）

とすれば、あなたの見解に従うと、国際語はその形成と出現の爲には *ad infinitum* 或る「新土色」や或る「新上部構造」を持たねばならぬとゆうのであろうか？

3.) 言語学の階級の影響に就て偏向しているイェ・クラシエニンニコヴァエの回答において、あなたは、階級は或る影響を持っていること、階級が言語の中文それ独特の単語や表現を持ち込むことを云つている。そしてあなたは続ける

「第一に、このような特殊な語や表現は、また語義上の差異の事例は、言語のなかにはきわめてすくなく、ヤツと全語彙料のパーセントにならぬかならないほどである。したがつてのこり全部の階級的な語彙の表現は、またそれらの語義は、社会の全階級にとつて共通のものである」（p. 596 2.18-19）

現実には正しく逆である。最も進化した言語は今日約四十万の単語をもつている。（大オックスフォード辞典は414825語ある）シエクスピア——最も言葉に富んだ作家——は一万四千語以上を使って書いている。言語学者 M. Müller に従うと、19世紀にはまだ400語以上を知らない百姓がいる村がイギリスにあつた！ 普通の人々は通常4000~5000語を知っている。このことは、普通人の単語ストックはその言語の全単語数の凡そ1%であるということを意味している。そのことは更に、無知識をも含めて或る言語社会のすべての成員に本當に共通である単語の材料は、その言語の全単語ストックの1%よりも低いことさえ多いとゆうことを証明している。他の99%のすべては別々の階級のみならず、職業、専門、はてはスポーツや娯楽等の側面的なもの等々に属している。

科学や技術の過去数十年間の進化や、常に増大する専門化につれて、正にこの国語辞典の「区別的」部分（専門的部分？）は非常に豊富になつた。しかし常に増加する国際関係のゆえに、この豊富化は普通並に国家的計画よりもむしろ国際的計画に一層多く起つて来たし起つている。

この国際的近代化の過程、その国際化の過程は：即ち、人工的な自身で造り出している（即ちあなた自身の論文全文中）に於いては、国際的性質を持つてゐる。このすべてのこと（a）人類の歴史の中で来ている。老人をよめさせること（b）生活の質を向上させている。どんなに遠くでも使われる外例はどのことかこのことの正しさを認める（c）この国際化の過程に充分よく貢献する者（d）あなた自身、又——多分この過程のようす「社会」のようす、政治や「世界」のようすである。——正にこれによって共通性がある。それに反して、語彙の増加が必ずしも進歩的である。24日、ロシアの革命の可能性で「Voprosi Akademiji」この改革の必要が認められること、我々がこの手

この国際的進化は——別々の言葉で云えば何んな言葉の単語の材料のみならず表現の形式と文
もの国際化の過程を容易に見ることが出来る。ヒットラー政府やそれと似た政府は例外を排
した：即ち、人工的に政治的、法律的な方法でこの当然の進化を止めようと試みたのだった。

あなた自身でさえも、幾々が今引用した小さな部分に於て国際的証根をたつた回行中に七回も
使っている（即ち【ロシア語の】特殊な、限義的（二回）、パーセント、材料、塊、階級）あ
なたの論文全文中には、あなたが主題にしている問題に大に関係がある 10 ~ 30 % の国際的証
根が使われている。しよつ中であつてくる接続詞や前置詞、ありふれた動詞など——もちろんそれら
は国際的性質を持ち得ないものだが——を除けばその%はまだまだ高まるであらう。

このすべてのことは次のことを意味している。

(a) 人類の一般的物質的・精神的進化にもとずいて、言語は既に数世紀の間及々国際化し
て来ている。何んな政治的力か或期間人工的にこの進化にブレーキをかけることは出来てもそ
れを止めさせることは出来ない。

(b) 生活の何んな方面——特に科学と技術——は既に言語的にも次の様に国際化してしま
っている。どんな部門であろうと夫々の専門家は外国語で書かれたその部門の事物を著かれて
いる言葉を使う外国人の非専門家がその本を讀むよりも遂に容易に讀むことが出来るのである。
例えはどこのコルホーズ員に、あなたの手紙から語義學に就ての部分を讀ませてみれば、この
ことの正しさが容易に直ぐわかるであらう。

(c) この国際的な言語材料は、それに簡単な文法的形式を与えれば、真の国際語を作り上
げるのに充分よくレッキリした土台を示している。本質的には正しくそれをエスプレントの天才
的創造者ガゼンホフ博士がなしたものであり、彼の作品はあらゆる困難や反対にも拘らず全世
界に拡まった。

(d) あなたが「社会主義の勝利」に就て語る場合、明にあなたは、現在ソ連に存在してお
り、又——多分ニュアンスの違いがあるかもしれないが——他の幾つかの国に現実化されている政
府のような「社会主義」を念頭において理解している。

思うに、そうならば、その広大な空間の上に——あなたの手紙に從えば——既に「諸国平等」
抑圧政治や「世界帝國主義」の綱領の一つである言語の同化の清算が現実化されていてもよい筈
である。——更にあなたの意見に從えば——我々は少くともこの様な政府の下に存在する諸国
にとって共通な一つの新しい「地域的」言語になるための言語の融合の開始を期待してもよい筈
である。

それに反して、数百万の非ロシア語民族にロシア語が義務的に教えられていることを我々は確
認することが出来る。同時にソ連の言語学書遣はロシア語を「最も進歩的な文化の道具……最
も進歩的な科学の道具……平和と進歩の言葉……偉大なる聖かな力強き……」（1950年5月
24日、ロムテイエフ教授がイズヴェスチヤ誌にて）だと述べている。現在に於ける国際語の
単なる可能性でさえも「帝國主義的ブルジョアジーの反動的イデオロギー、コスモポリタニズ
ム」（Voprosi filozofiji N-ro 2/1949）の表現で攻撃している。ロシア語は「ソ連の
言語であるのみならず、人民民主主義諸国の国際語でもある」（ヤコヴリエフ教授が「Vjestnik
Akademiji Nauk SSSR N-ro 2/1950にて）と宣告してはばからない。

この様な事實が何ものよりも明に明証している點に思はれる。あなたの手紙の論理的説明よりも、この
様なことがらに「国際語」に関するあなたの否定的な見解の眞の原因をすつとよく示している。

我々がこの手紙で客観的に示した事實があなたの見解を変えさせるかもしれないとは思われない。

そんな目的で書いたのではなく、我々の見解を明にしたいと思つたのである。今後の歴史の進展がいかに理があるかを示してくれるであろう。

1952年5月

ロンドン UEA 委員長 西
パリ SAT 遊学委員会

(朝比曠昇 訳 Feb. 1953)



エスペラントと 平和運動

ブルダ・バルドフ
(チエコ)

中野一訳

「血に飢えた敵の方へではなく……希望の聖なる旗じるしの下に平和の戦士が結集する」これは偉大なる先生ザメンホフによつて書かれた聖歌 (La Espero) の一節である。彼はその天才的著作をもつて彼が到達すべく希望した目的とその意義を明確に表現したのであつた。エスペラントは常にその理想を彼が人類にゆだねたものである。

今日我々の周囲を眺めて、我々は次のことを認識する必要がある。即ち多くのエスペランティストがまだ我々の言語エスペラントの意義を理解する能力をもたず、又創造者の理想をもわかっていないと云ふこと。我々のうちの多くはエスペラントを全く無目的な無理想な唯の言語として使い、ザメンホフが何の爲にこれを著したかも知らず、ザメンホフがその理想を示した聖歌 (ラ・エスペーロ) を唱いながら、その文句の深い意味については全く見付いていないと云ふことである。

たとへば全人類が一つの国際語を話すようになったとしても、エスペラントの内部精神とその目的を知らず、相変わらず国と国との争いや政治的経済的権力闘争が執られているならば、ザメンホフの理想はまだ長い南実現されないのである。

エスペラントは各国各民族が友愛によつて結ばれる爲の胎児を宿している。しかしながらエ

スペランティストがそのことに盲目であり、おしであるならばエスペラントには何の価値もない。エスペラントの内部精神とその目的を理解せず、又理解することを好まない人々はそれを理解し善識して活動しているエスペランティストにとっては無価値な石ころにひとしい。多くのエスペランティストはよくお互に "Samideano" (同じ理想のもの) と呼んでいるがこれはむしろ "Samlingvano" (同じ言葉を使う者) と云つた方が適當ではないか。何故なら多くのエスペランティストは、その聖歌の中に歌われて居り当然持っていなければならぬところの理想についてさへ知つていないからである。

我々は皆平和の戦士でなければならぬ。エスペラントは兼い言葉である。人々はそれをよい目的のために、相互の理解のために、色々な物質や報告や経験、その他の交換のために役立て、時には結婚の媒介などもたせられる。しかしエスペラントの主たる最も重要な目的はザメンホフがその聖歌の中に表現して与えたところのものに外ならない。

エスペランティストは人類戦りを防ぎ、その罪を宣告する者一人者でなければならぬ。エスペラントはそのすべての權威をもつて人々が国際的敵対関係と戦争を起す前に等にそれを不可能にするために我々は役立つ者である。

エスペラント運動と平和ヨーグ運動とは自ら

互にしっかりと結び
持ち両方とも同じ目
衛のために闘つてい
運動家はそれな
の相違が大さな
余り関心をもちつて
ストの方は一つの
陶氣の結びにおい
しかしそこではそ
いで、その目的
ていて同じではな
この両面からそれ

エスペランティスト
様に結合させ、成
ならない。又一ス
ティストが、彼ら
旗に望んでいる
る。そうすること
要問題は最も
利益を実現する

平和ヨーグ者
も緊急な武器と
であり、エスペ
の平和斗争の列
国際的相互理解
めのエスペラン
ある。それらの
人類はその理想
来るであろう。

今まで多くの
ると云う言葉の
ることを拒否し

原
Mi ate
verko
LEONTO
donos
Gio

互にしっかりと結びつかなければならぬ。何故
 たら両方とも同じ目的のために、即ち平和の防
 衛のために闘っているからである。各国の平和
 運動家は色々会議を開くけれども、その言談の
 相違が大きな障害になっていると云うことに
 余り関心をもつていない。その故エスペランテ
 ーの方は一つの言語による会議を行い、国際
 關係の結びにおいてはすでに強く保っている。
 しかしそこではその内部精神に対する理解がな
 いので、その目的、理想においては全く分裂し
 ているのではない。我々の当面の目標は先ず
 この両面からそれらの障害をとり除くことであ
 る。エスペランテーは各国の平和運動家を密
 接に結合させ、必要なら相互理解を身なすべ
 きではない。又一方平和運動家は我々エスペラ
 ンテーが、彼らと同じ目的の爲の共同活動を
 真摯に望んでいると云うことに信頼すべきであ
 る。そうすることによつてのみ、この二つの重
 要問題は最も迅速に融和することになり互の
 利益を実現する希望となるであろう。

平和ヨー者達は世界平和の助けとなるべき最
 も緊急の武器としてエスペラントを採用すべき
 であり、エスペランテーは積極的にその国
 の平和斗争の列に入り、密接な共同斗争の中で
 国際的相互理解の是非を必要であること、そのた
 めのエスペラントの採用について説得すべきで
 ある。それらの行動を通して両方とも利益を得、
 人類はその望むべき平和を確立することが出
 来るであろう。

今まで多くのエスペランテーは中立を守
 ると云う言葉のもとに平和運動に消極的に参加す
 ることを拒否していた。けれどもそのような中

立主義はエスペラントそのものの内部精神に対
 して非難を犯すものではないのか。ガメンボフ
 の身元を目的に反するのではないか。そのよう
 な態度は我々の言葉を普及する上に重大な障害
 となり、我々の運動に新しい波を引くところ
 ろか、かえつてそれらの人々を遠はらうことに
 なるのではないか。

我々エスペランテーは今やその目的を知
 らねばならぬ時である。偏狭的な中立主義を捨
 て、平和の戦士として結集せよ！

世界平和の保持の問題はすでに全人類によつ
 て動かされはじめている。世界のあらゆる部
 署で人々は平和のために闘っている。平和戦士
 の最も有能な武器は我々の腕の中にかくされ、残
 念ながら今まで不十分にしか使われていなか
 ったに過ぎない。エスペランテーにそれを使
 う能力があつたならばそれはもつと有能な武器
 となつていたのである。我々はそれをもって真
 実の奇蹟を行うべきだ。

国々に夜明けがやがて来て、各地にエスペラ
 ント平和会やロンドが設立され成功的に働いて
 いるのが見られるようになった。それらは他国
 人との相互理解、経験や助言や展覽會その他の
 交換を行い傍觀者の注目を引きつゝある。我々
 は我々の言葉を實際に適用してゆくことによつ
 てこのアミをさらに拡げるならば、世界平和の課
 題における平和運動とエスペラントとの融合に
 成功すること出来るであろう。

(*Levo* のエスペラント誌「早戦士」より)

註、この雑誌は秋田エスペラント會機關紙 *Verda Flago* nro 4 から転載したものである。マガジンを引きたいところはここに示す

原稿募集

*Mi atendas vian interesan
 versojon por mia eta gazeto
 LEONTODO nro 9, kiun ni el-
 donas en Frua Printempo.
 Ĝis la 10-a de Marto*



*Se japana, Bonvole skribu
 sur la paperojn, nomata Gen-
 kōjōsi.
 Se Esperanta, Bonvole ne
 embarasu nin pro malbona
 formo de literoj.
 Enhavo... laŭvola Longeco... laŭvola*

緑星の由来

(4)

朝比眞昇

実際、《Lingvo Internacia》誌の1898年12月N-ro 36に私造のエストニア人同志(エストニア人用の教科書2冊とエスパラントーエストニア語辞典との著者)によるこの広告が見られる。—《de Beaufront 氏の記述(《L.I.》誌1896 N-ro 2号版)に本らつたエスランチストのバッジをH. Stalberg, Rusujo, Estl. gur. Vezenberg, Peterburga str. 97が作り。どこのでも送ります。ピンか止めネチ(Getono)Xのどちらが欲しいかを著者と忘れぬよう》の附

いた銀バッジを1.5ルーブルで、ブロンズ(銅製)なら0.5ルーブルで。どちらも金メッキ。ブロンズ製を今回は本当のワウ薬をまかけて作つたので定価を上げねばなりませんでしたが、各国のお金を受け取りますが、ロシア以外の切手は御座敷下さい。送料は別で、手紙とせり小箱で送れるロシアなら14コペックから、外国なら20コペック以上かかります。》

次の号ではこの広告が少し変更されている。《外国のお金を扱うこともできます。但しイギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、北アメリカを限るの貨幣のみ。N-6号(1900年12月)でStalberg 氏は改つて、《エスランチストのバッジを 送料だけ作ります。1枚1.5ルーブル(送料別)、銅製はもう作りません。》

1904年8月にガレー(フランス)とドーヴァ(イギリス)のエスランチストグループがフランス・自動車クラブ主催のLa Manche 海峡におけるモーター・ボート・レースの機会に提案して国際集會を行ひ、220人許にフランス、イギリスの同志達が集つたがベルギー、オランダ、ドイツの教人も参加した。この集會は

大成功だったので、編纂者 Alfred Michaux (マルブレドゥ・ミショ)が自分の住んでいる Boulogne-sur-Mer (ブローニュ・シュール・メール)町を翌年の国際集會の場所として提議し、これをブローニュでの一大重要集會に招待した。彼のこの提議は翌1905年に輝かしい第1回万国大会を華実としてもたらしたのだつた。

この頃 エスランチストのバッジに対する幾つかの提議が現れ始めたので、Nancy (ナンシー)の Pourcines (ポルシヌ)技師がこの Calais-Dorer 集會で、《一定形式のシルシが採用されるべきだがアマ下り的なモデルに反対する人もある》と相談した。討論の



S

ち、最後に決議が出された。—《集會や旅行などの際着けるとよいエスランチストの目シルシのマークは緑色五頂冠である》

1904年9月の《L'ESPERANTISTE》誌の注意によると、丁度それは de Beaufr-

nt 氏か 1893年3月の《Esperantisto》誌を提議したものであつた。

Joh. Dietterle 博士によつて編まれ Internacia Cseh Instituto de Esperanto から美しく出版された L. L. Zamenhof の《Originala Verkaro》(著作集)は456ページに Zamenhof 博士が1911年9月30日に《The British Esperantist》に於て書き、1912年8月号に載せられた手紙を再現させている。《親愛なる諸君！私達の緑星の由来について私はもう今日ではよく覚えておりません。緑色に関しては Geohagan (ギヤハガン)氏がある時私に注目させ、この時以来私の著作を録表紙(目立たせようとは全然思いませんでした)で出版し初めたように思われます。私か全く偶然に録表紙で出版した一つの本を見て、彼は私にそれが彼の故郷アイルランドの色であるといふことを教えました。その時私の頭に希望の

シンボルとして二
考えが落ち込んだ
それを de Beaufr
たのだつたように
私かそれをマーク
の考案の組合わ
珍らしいこと
matiadis 博

er 18 f.
自分の時間をそ
ロバに於つた
の歯を残すだけ
無い。不始の暗
然と手解めて、

いまは大部分
て、真以外
に徹することは
一貫として甚

Esperant
ることは何
zikoj や
Lingvost
述して、当然
だけを物にす
ある。しかし
るのではない

シンボルとしてこの星を認めることができる。という
 秀次が降参したのです。五頂星に同じくは、最初、
 それを de Beaufront 氏が自分の文法に印刷し、
 たのびたように思われます。それは私の筆に入り、
 私がそれをマークとして採用しました。これはこれら
 の考文の組合わせによって線の星が現れたのです。》
 珍らしいこととして私は Ana kreon A. Sta-
 matiadio 博士の興味ある記事(《Holena

Esperantisto》誌 1951/ Nr. 164
 165.) に読まれることを附け加えたい。
 《お互に固い友情と相互扶助、永遠の同
 胞愛を予言している》 Pitagoranoj
 (有名な古代ギリシヤの哲学者ピタゴラス
 の後継者達) が用いているマークは、《
 奇しくも、五頂の線理であります。》
 (おわり)

e? 18 f.

自分の志向をその方向の観賞に費すことができるのだ。もしもそれらの教養を身につけずにヨー
 ロッパにいらしたら、折角美術館や劇場に案内されても、堂の山に入りながら手を空しくして帰る
 の悔を残すだけだろう。ただし文化的教養を身につけるということは一朝一夕にできる問題では
 ない。不当の努力によって、恰も蜜蜂がいろいろの花から蜜を採取して巣箱に運ぶように、毎日
 定率で、できるだけ多くの書籍を読むより外に方法が無い。

いまは大都改まって来たようだが、日本の専門家は、専門の部門にだけどっかどっかとアグラをかい
 て、専門以外の事には一向無関心である、と云った態度をとる人が多かったのではないか。専門
 に徹することは大いに能積だが、専門以外の事には全然馬鹿牛であると言ふのでは、文化国民の
 一員として甚だ不面目な事では無かろうか。

Esperanto を Lingvostudo としてやっているわれわれは語学そのものの習得に努め
 ることは何よりも大切なことであるが、それと同時に一度は Eŭropo の belartoj や mu-
 zikoj や teatraĵoj のせめて概観にだけでも通じておくことが必要だろうと思はれる。

Lingvostudo が筆を執るべき事々々でしかないのでは無いとしたならば、われわれはたゞ語学の「量」
 だけを物にすることに専心すべきだ。これが komercanto に譯せられるた一つの問題で
 ある。しかし komercanto の時から上掲の事を心算した方が、後になってその人の為めにな
 るのではないかと、身の悪い私には思はれるが、どうなるものだろう? (終)

註. この verbeisto は花柳水郎氏、この skribaĵo は N-ro 74 の
 編さす。

Dankon pro viaj helpravtojn al ni!

Ricevitaĵ kartoj : 秋田エスペラント会、関西大学エスペラント会、小田原エスペラント会、友島一田中氏、

Donacitaĵ organoj : Riviero (友島エスペラント会)、La Morado (関西連盟)、VERDA FLAGO (秋田エスペラント会)、Verda gardeno (高田エスペラント会)。

お七がき

相変らずの内容である。最近の日本の Esperantujo の organoj は極めて低調不活潑である。関西連盟の organo, La Morado はその甚否録 (N-ro 32) の中で云っている「これをもらつたら必ず亡くなるというお七がき機肉誌が今年には小稲の LEONTODO へ。Lumo 消え、Torĉo 滅し、Espero 地におちた今日、ほかなく夏の Leontodo と散り果てぬよう、御用心、御用心。さても新生の EWA や「題名のない機肉誌」(学生)に物申す、機肉誌賞をもらねぬ程度に大いに頑張るべし」聞かすようではすいぶん失礼な言草ともとれるが、しかし両人の迷信とはかりでは片付けられぬものがそこにある。何故機肉誌が次々と出来ては消えてゆくのか考へてみる必要がある。機肉誌は低調だが運動は活潑である、とは考へられない。機肉誌を見れば、そのエスペラント会の傾向も消長もわかるというものである。

organo がつぶれる原因は原稿が集まらぬ、会費も集まらぬ、読水補われ等であるがそれらはもちろん不熟練の反映である。不熟練がなんでわるい、とひらきなおられると聞か、要するに Esperantisto であるうちは Esperanto に真剣であつてほしい、と望みたいのである。

LEONTODO の会費値上げはいろいろ苦事情からせむを言ないことと思う。経済的に困難な人はせめて30円でも協力していただきたい。余裕ある方はもちろん毎月50円がっでお願ひしたい。従来会費はほとんどわづかだつたのでいろいろとつらい目にあつていますが、原稿は充分増高してから出して下さい。(Y)

LEONTODO N-ro 8 (隔月刊)	
発行	1953年12月22日
印刷人 編輯人	山本昭二郎 (小樽市住今町九ノ八 掛番小程 20406)
発行人	小程エスペラント会 小樽市花園町東3~11 山醫眼科医務院内
会費	30 jenojn. (含送料)

Projekt

12月13日

られれ地島氏も
か保護され、次

1. 来年度の
 - 1) 例金は
 - 2) 費に課
千歌、地
毛克実さ
活動に参
2. 1954
(収入) 實
正
等
(支出) R
L
R
L
L
近
会費が
らいの
になつて
又は会長
3. LEON
ZEON
たし発分
1) 季
原稿は
5部以
4. 火
6.30
7.00
7.30
8.30
5. 役
精

大会に出席して

星田 淳

四月に九大を出ると共に、今迄つめていた Esp. の仕事からは自察に絶縁したようになつてしまい、心ならずも殆んど Esp. の本もよまない生活がづいていました。それだけに 10月の小樽の大会は前から心待ちにしていました。当日は久しぶりに多くの samideanoj と共に色々とお話をし得て、実に愉快な一日を送らせていただいたことを皆様に御礼申し上げます。

そのように愉快になつてしまつたため、初めて参加して皆様には初対面の席上ついでしやばつて戦つてみたりしやべつてみたり、お耳を汚したことをお詫し下さい。Esp-isto が Esp. から離れているのはさびしいものですから、福岡で去年のゲームオフ祭の時でしたが、集会を終えて junaj gesamideanoj だけ残つていたところへ、「俺もむかしやつたことがあるんだ」と ebrieta viro がとびこんできて、片言の Esp. をしやべりまくり、炭鉱の人だつたので丁度スト中の炭労の友誼も奨励して（実はこちらが目的で選つていたらしいが）上機嫌で帰つていった。その手を思い出し、その人の気持ちがわかるような気がしました。

私はまだ北海道の Esperantujo については殆んど知らずこれから皆さんのお世話になるわけです。よろしくお願いします。

感じたことを若干

もとより私は今度の大会が北海道の Esperantujo への初見参というわけで何もわからなかつたのですが、あの Laborokunsido で一体何がきまつたか、何が討論されたかを考えてみると、いろいろな点ではっきりしない点が沢山あつたように感じました。北海道 Esp. 連盟があるということは前々から聞いていましたが、その組織、地方会との関係等についてもどうもはっきりした討論がなかつたように感じました。もちろんこんなことは急場の形式的でつち上げでやるべきことではないと思いますが、九州においては、地方会はずべて連盟に入るという原則でほとんどの地方会が加盟しており、会員一人当り月いくらというようにして、連盟費を連盟に出すという形になっています。両面連盟では機関誌 La Movado の読者をすべて連盟員として各地方毎に地方会としてまとめたような形。従つて Movado の誌代即ち連盟費のようになっていきます。ここ北海道ではどんな形で全 Esperantistoj の団体としての Ligo を育てていくか、すぐこうと出来ることではないにしても、今後の方向位はもう少し皆で考えてみてよかつたのではないのでしょうか。Leon-todo を機関誌という名にするかどうかについても固苦しいものにしたくないかららしいということになつたようですが、機関誌というものは固苦しいものという定義はどうかと思ひました。機関誌というものはやる団体の宣伝と amoj の連絡に当るものでしょうが固苦しく読みづらいものではその役に立たないでしょう。日本大会でも、又九州大会でも、大会前に各議題は地方会にプリントとして送り、地方会としての意向を一応とりまとめさせるようにしていましたが、そうすれば議

事も円滑に
一考下され
Esp. te
快な気分
ないでしょ

オ17回
開催されま
午前9時
続いて Esp
した。埃
上京して
せられた
藤代三氏
るものを
ウツク
Grand
と以上の
加藤一
氏と鏡
午前1
る decia

Propo
Deci

Propo
Deci
Propo

Deci
Propo
Deci

事も円滑に進むのではないのでしょうか。いろいろ勝手なことばかり書きましたか御一考下されば幸です。

Esp. teatraĵo. ハーモニカ演奏等充分に楽しめましたし、港内一巡も実に爽快な気分でした。一日の日程では、これ以上の懇親の機会がなかつたのは止むを得ないでしょうか。一寸残念でした。

— 大会報告 —

オノノ北海道エスペラント大会は10月11日午前9時より、小樽市労働会館にて開催されましたが、次にそのもやうを報告致したいと思います。

午前9時、札幌、由仁から同志が相次いで到着。小樽、高橋氏立って開会を宣言し、続いて Espero の斉唱あり、大会議長に札幌の相沢氏を選出して は開始されました。先づ各方面から大会によせられました Mesaĝo 及び Saluto の披露に入り、上京して帰郷したばかりの小樽、早川氏立って S-ro Toki と S-ro Mijake から寄せられた Mesaĝo を読みあげ、又壇内の同志、函館の石田、小田島、柴田氏、札幌の新藤代三氏、江崎子さんからの手紙による Saluto も紹介されました。祝電の主なるものを次に紹介致します。

ワウクシイセカイノタメニダイカイバンザイ 函館 井上一氏

Grandan Sukceson kaj Koran Saluton 幾喜別 岡本氏

と以上のとおりであります。続いて各地代表の Saluto があり、札幌からはアリヤ、加藤等一両氏、由仁からは新田氏、小樽から山賀博士、苫小牧から参加された星田氏と続々立って挨拶されました。

午前11時より大会議事に入りましたが、次にその時の propono とそれに対する decido を掲げます。

Propono LEONTODO を全道 Esperantisto の organo としたいか。

Decido 1. 単なる gazeto としておく。

2. H.E.L gazeto とせず全道 esperantisto に開放された小樽 gazeto とする。

3. 連盟の記事をのせる欄をつくる。

Propono 連盟本部を札幌に移したいかどうか。

Decido 札幌にうつす。本部を札幌市上白石二区粗糠澤治氏方におく。

Propono 小樽に定期 Sveda kaj Angla Sipo が来るが、その Esperantista Maristo を来年の9月の大会に歓迎するか。

Decido 連絡がつけば歓迎する。

Propono 明年度の大会を何時何処で開催するか。

Decido 場所は札幌 時期 9月中。

星田
三石
小田篤
吉田

議案提案を終って役員を改選し会長に相沢氏を選出し、他の役員は会長が任命することと定めて半年中の選挙を終了した。

晝食後午後1時再開。出席者一同自己紹介の後、引続き余興に入り、各自打とけで謡の花を咲かせた。又、三石、星田、児玉氏等の *Kanto*、高橋氏と前田氏との *Komedia*、斎藤翠氏のハーモニカ独奏など、多彩な催しものがあった。終って会場玄関に打揃って記念写真を撮影。午後3時、一週 *Tagigo* を斉唱し、労働会館を引き分け、海賢学校の「しらかばあ」で港内見学を行った後、午後4時小樽駅において解散した。(前田)

○大会席上に於ける各地報告

札幌 5月～7月の講習で十数名の会費を得た。エスプラント展覧会をやろうと思つたが出来なかつた。(アリマ氏)

由仁 岩見沢にエスプラント宣伝を考えたが会場が見つからずいろいろ都合で不可能であり、由仁における講習会も出来なかつた。しかし、目下岩見沢に活動のめばそうとしている。(新田氏)

小樽 5月～7月 初等講習。Leontodo の Premio を日本大会で受けた。5月講習会に先立ちエスプラント展覧会。高橋氏 Usuno へ向け航海帰る。佐山さんによって翻訳された北国の物語ラヂオで放送。(山嶺博士)

(収入)
前年
運賃
会費
寄附
程

大会参加者 敬称略。△印は欠席参加

○札幌

- アリマ・ミハル 札幌市北24、西9.
- 西里静彦 南16、西5.
- 新井静太郎 大通 西13.
- 加藤孝一 南1、西1、北星映画支社
- 相沢治雄 上白石町2区
- 児玉広夫 北2東2 西村大男方
- 早坂基 南2西2.5 郵政省建築課
- 森田俊雄 北15西2 岩崎実方
- 高屋直子 南4西5 札幌別院
- 渡辺由美子 南4西5 札幌別院
- 高木敏子
- 辻 靖子 △ 南23、西8
- 高橋要一 大通東8-1

○小樽

- 山嶺 勇 小樽市花園町東3-11
- 山本昭二郎 住江町9-8
- 山口俊也 (小樽海員学校内)

- 高橋 達治
- 江口 音吉
- 前田 幸一
- 鷺田ミチ子
- 佐々木俊一
- 服坂圭治
- 佐藤 忠考
- 桂山や子
- 鈴木政次
- 早川 昇
- 斎藤 翠
- 小黒一弘

○由仁

- 新田 爲男
- 泉谷 昭典
- 外山 雅子
- 成松 富子

○その他

- 汐見台町海員学校内
- 奥沢町4-22
- 花園町西2-17
- 新光町128
- 桂ヶ岡 184
- 入舟町4-4
- 長橋町22
- 花園町西2-21
- 稲穂町東1-6
- 緑町2-2
- 花園町東2-12
- 稲穂町東3-16

- ア張郡由仁町寺三川
- 宇川端
- 宇由仁
- 羊館本

星田 淳 苫小牧局区内北光東
 三石 清 東京都武蔵野市吉祥寺 2458
 小田島 栄 △
 吉田 栄 △ 函館市船見町 43

以上 36 名

大会收支決算

(1952. 10. 18)

(収入の部)

前年繰越金	270.00 ^円
運営費金(借入)	3,000.00
会費(34名)×150 ^円	5,100.00
寄附	3,180.00
雑収入	300.00

(支出の部)

当日書食代(31名)×80 ^円	2,480.00
写真代(35枚)×80 ^円	2,800.00
通信費	1,425.00
ホート謝礼	1,000.00
会場使用料	680.00
借入金返済	3,000.00
雑費	425.00
翌年繰越金	50.00

11,850.00

11,850.00

(寄附内訳)

札幌エスパラント会	500 ^円	江口音吉氏	300 ^円
吉田栄氏	200 ^円	早川昇氏	100 ^円
池島与三吉氏	500 ^円	高橋達治氏	100 ^円
山賀博士	1,380 ^円	前田幸一氏	100 ^円
		計	3,180.00

○註 雑収入は会費150円を超過して払っていただいた超過分の累計。

(以上 前田)

★ ZAMENHOFA FESTO en Sapporo

サッポロのザメンホフ祭は19日17時から2時南、北海道町村会館 (Palais Kongreso de H.E.L 1951の会場) オズ会議室で、相沢、木村、アリマ、高木、児玉、早坂、三石、西里の5-raj 及び f-ino 小原の9名によって gaja に開きました。札幌エスパラント会の会費は未定。H.E.Lの役員は次のごとく決定しました。委員長 相沢、委員 山賀、アリマ、新田、他に Izolita Samideano (昨年の大会で決定した通り) 5人と決定しました。(以上アリマ氏)

◎尚、由仁エスパラント会のZ祭は12月22日現在まだ行なわれていない。しかし22日以降に早急に向く、とか。